

主の昇天 (マルコ 16・15—20)

すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい

マルコは「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16:15)と言っているのに、マタイは「すべての国の人々」(マタイ 28:19)に弟子を作るとしか言っていないのはなぜでしょうか。

この「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」というテーマに基づいて、現在の環境危機や気候変動に対するキリスト教の対応について神学的考察を展開することは興味深いことです。キリスト教の霊性の歴史の中には、文字通り被造物全体と共に「良い知らせ」を生きた聖なる男女の非常に興味深い物語があります。典型的な例として、アシジの聖フランシスコが挙げられます。彼は、素朴さの中で、あらゆる形態の生物と仲良くしました。そして、「兄弟の太陽」と「姉妹の月」について歌っていました。このような精神性ととともに、私は、すべての造られたものに福音を宣べ伝えるという招きには、さらに深いものがあると考えています。

第一に、マルコの言葉にあるイエスの委託は、私たちが具現化された存在であることに気づくよう招いています。私たちは被造物の一部です。私たちは、体現された性質の中で、神の愛を経験します。私たちの救いの経験の根底には、体、心、霊といった自己全体を統合するという課題があります。

第二に、すべての造られたものに福音を告げることは、聖パウロがローマ人への手紙(8:19-24)の中で語っている、被造物全体が待ち望んでいること、うめき声をあげていることを思い起こさせます。被造物の中には、神の中の完全性に向かう動きがあります。なぜなら、ナザレのイエスにおいて、神は被造物の一部となったからです。イエスの中で、創造主である神が被造物の一部となったのです。イエスの中で、私たちは自分が本当はどうなるのかを見ます。イエスの中で、私たちは創造の目的の成就を見るのです。したがって、福音の告知は、私たちと他の被造物に、希望を持って待っている完成への旅を思い出させてくれます(ローマ 8:24)。そして、黙示録が約束しているように、私たちはすべてが新しくされるその時-カイロス-に向かって旅をしているのです。これは、次の日曜日にその祝宴を祝う復活の主の霊の働きではないでしょうか。"見よ、わたしは創造のすべてを新しくしている"(黙示録 21:5)。